

# 人の繋がりを大切に 地域一体の村づくり

大原環境保全組合（倉吉市）

代表 岩崎 幸雄

## 【地区の概要】

倉吉市の東部に位置する本地区は、近くに流れる一級河川天神川からの豊富な水源を得て、水田が22.2haビニールハウスが約150棟広がっています。

山と川に囲まれた110軒ほどの小さな集落で水稲とハウスでの野菜の栽培が中心です。



# 【地区の特産品】

## 「大原トマト」生育、管理作業共に順調



トマトーン作業に汗を流す牧野部長

「A鳥取中央の特産品の一つ「大原トマト」の生育が順調に進んでいます。「大原トマト」は無加温低段密植栽培で育て、定植から収穫まで4か月と長い時間をかけて熟成させることで酸味と甘みのバランスが取れた高品質なトマトとして人気が高く、農家全員がエコファーマー認定を受けるなど、安全・安心なトマト栽培を行っています。大原トマト生産組合では6戸の農家が約1haで栽培。12月から4月にかけては着果や実の生長を促進させるトマトーン作業に取り掛かっています。同部の牧野文徳組合長は21aで栽培。牧野組合長は「1月に適度な降雪と日照量が確保でき生育は順調に進んでいる。例年以上の収量と変わらない品質、おいしさの大原トマトが期待できる」と話していました。

**本地区で栽培する「大原トマト」は倉吉市を代表する人気ブランドとなっています。**

**無加温栽培で長期熟成させるため、果肉が厚く糖度も高いため市場で高い評価を受けています。**

**是非一度  
お召し上がり下さい**

# 大原トマト いい出来

倉吉で初出荷式 寒暖差で糖度高く

倉吉市大原で栽培されている特産「大原トマト」の初出荷式が16日、地区内の大原多目的センターで行われた。生育は順調で、生産者によると近年にない出来栄えという。式後には大玉

で赤く色づいたトマトが次々と箱詰めされた。出荷は6月末まで続く。同地区は、50年以上のトマト栽培の歴史があり、大原トマトとして鳥取県内の消費者や進物用に人気が高い。10月に種まきをして、温せず長い時間をかけ熟成させて、うま味成分を引き出す半促成栽培を行っている。今シーズンは6戸が93aで栽培。品種は桃太郎系の「冠美」など数種。



生産者から運び込まれた大原トマトを選果して箱詰めの作業員＝16日、倉吉市大原



式ではJ A鳥取中央の栗原隆政組合長が「世代を超えた技術の継承で今年もいいトマトができた。新型コロナウイルスに負けず地場販売をしっかりやっていきたい」とあいさつ。生産組合の牧野文徳組合長（68）は「昼と夜の寒暖差が激しく、糖度の高いトマトができた」とPRした。  
県中郡を中心に出荷量約93t、販売金額4500万円を目標す。（吉浦雅子）

## 【活動の経緯】

昭和47年の圃場整備により設置された水路の老朽化の問題や将来の農業での生産性向上と土地利用を整備して活力ある農村としていくため、平成18年度に組織を設立して取組を開始しました。

現在では農家25戸・非農家80戸、その他に自治公民館、子供会、農事組合、JA女性会、鳥獣対策組合、老人クラブ、土地改良区など集落全体で活動して明るく活気ある集落づくりを日々目指しています。

平成28年の中部地震や令和3年の豪雨災害の際も保全組合・自治公民館・土地改良区など集落全員で迅速に被害の対応を行い、水路の段差等の補修や農道の陥没補修などで集落全体の劣化を防ぎ、年次的に活力維持に努めています。

# 【活動内容】

(1) 認定農用地面積 田：2,216a 畑：1a

(2) 農業用施設 水路：9.5km 農道：6.3km

(3) 活動内容

◇農地維持 共同作業を年2回実施  
水路法面の雑草木伐採

◇共同活動 植栽活動、清掃活動  
広報誌（新聞、通信）  
消防訓練など

◇長寿命化 農道の路面補修  
水路の浚渫や部分補修  
樋門等の施設補修



老人クラブを中心とした花壇整備



消防訓練で水路の重要性を再確認！



広報誌では、多面的の活動だけでなく、集落内の様々な出来事をお知らせ♪

# 【景観形成活動による「ふるさと愛」の育成と福祉施設との連携】

## 子供会によるひまわりの作付け



開花の時期は  
定番のお散歩  
コースに♪



連携



## 福祉施設へ切り花贈呈



おばあちゃんに  
プレゼント

子供から元気を  
貰います(^\_^)

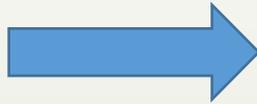


# 【災害復旧】

令和3年7月の記録的な豪雨では、山からの土砂で水路が閉塞し、道路や家屋も冠水してしまう被害



すみやかに対応して  
地域の劣化を防ぐ！



## 被害調査と緊急対応



R4年度も交付金を活用して水路を浚渫（60m）

## 【最後に】

これまでの活動を通じて集落の住民同士の交流が維持・発展され、共同作業では農家・非農家を問わず集落全員で協力し助け合い、地域の活性化に取り組んでいます。

しかし、「高齢化による後継者不足」、「施設の老朽化の修繕費用」、「長寿命化交付金の予算不足」など、まだまだ今後の課題は山積みです。

多面的機能支払交付金を活用し、人との交流を大切にしながら健全な農地を守り、且つ、若者に郷土愛が芽生えて定着し、都会からもUターンしてくれるような豊かな集落にしたいと思っています。

# ご清聴ありがとうございました

